

プレFDと教養体育インターンシップ、 キャリア形成支援の取り組み

小林 勝法

全国大学体育連合専務理事

日本体育学会大学体育問題特別委員会委員長

文教大学教授



公益社団法人

全国大学体育連合

大学体育教員養成の3つの段階

	大学院	全国大学体育連合
大学院生	大学教員準備教育 インターンシップ	(←協力の可能性)
初任教員		指導者研修会
それ以降	学位プログラム	キャリア形成支援

需給バランスと質

買い手市場

競争が起こり、質が向上

供給過剰

優秀な院生確保が困難

大学院の淘汰

優秀な教員確保が困難

個別の大学での対応では限界がある。
学界全体での対応が必要。

大学院に求められる人材養成機能

- ①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ**研究者等の養成**
- ②高度な専門的知識・能力を持つ**高度専門職業人の養成**
- ③確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた**大学教員の養成**
- ④知識基盤社会を多様に支える**高度で知的な素養のある人材の養成**

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」(2005)

大学教員の養成

「大学院における大学教員養成機能(プレFD)の強化を図る」

中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」(2008)

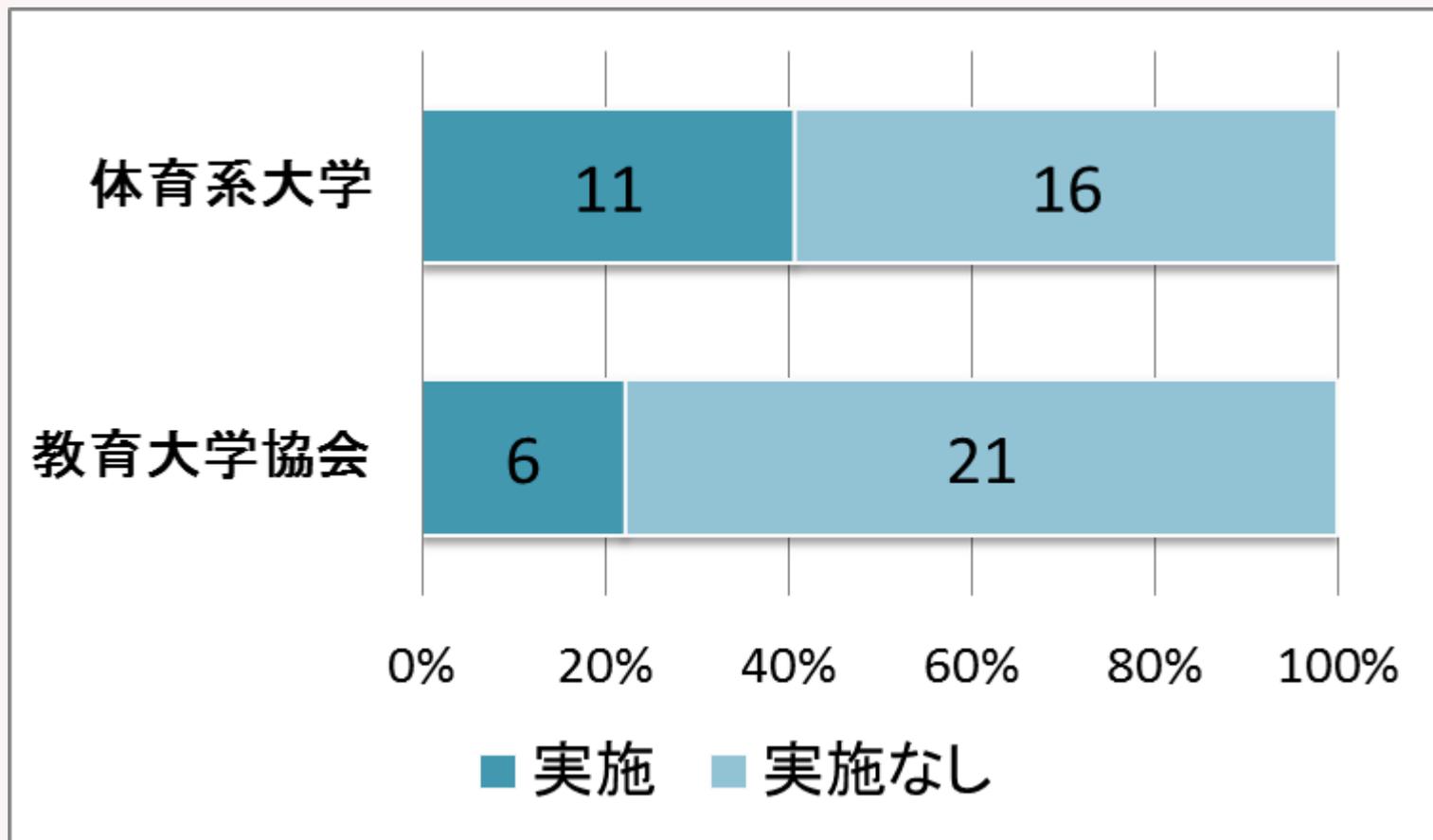
「プレFDの促進とTAの充実」

第2次大学院教育振興施策要綱(2011)

実践事例:筑波大学や名古屋大学、京都大学等

夏目達也ほか(2010)『大学教員準備講座』

大学教員準備教育(プレFD)の実施状況



「運動部指導における体罰・暴力根絶および体育学教育の質保証に関する調査」
(2014)より

プレFDプログラム開発

1. eラーニング教材

「大学教養体育の理念と現状」(17分)

ウェブサイト^①で無料公開中

教養体育FD

検索

2. ワークショップも開催(2013年)

教養体育インターンシップの背景

大学院生

- 約4割が保健体育の教員免許を取得していない
- 約2割が体育学や教員養成の学士課程教育を受けていない
- TAは専門体育の授業
- 教養体育の実態を知らない

教養体育インターンシップの趣旨

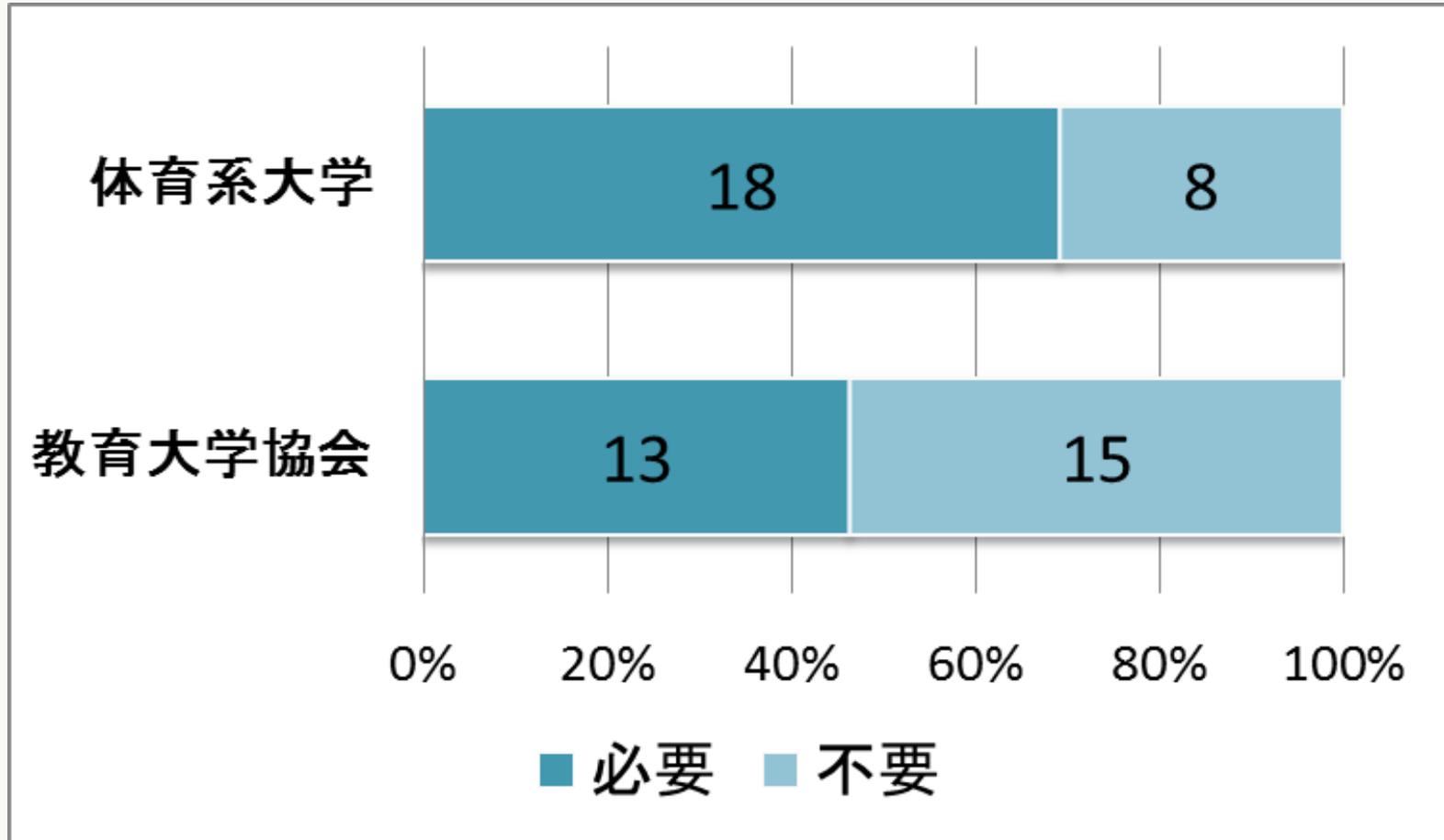
体育大学の大学院生に

他大学で教養体育や管理運営業務の職場体験をさせ、

大学体育教員キャリアに対する理解を深めさせ、

インターンシップから専任教員や非常勤講師採用へとつなげるような仕組みについて検討する。

他大学で行う教養体育のインターンシップ



「運動部指導における体罰・暴力根絶および体育学教育の質保証に関する調査」
(2014)より

大学院生の意向

インターンシップに興味心がある

全体(61人)の67%

就職希望者(37人)の92%

平成26年2月 対象者は104名 有効回答率 59%

インターンシップ^o実習内容

1. 事前学習
2. 実地研修
 - (1) 授業補助・見学(実技、講義など)
 - (2) 施設・用具管理業務
 - (3) 学内行政活動
 - (4) 研究活動
 - (5) 社会・地域貢献活動
 - (6) キャリア形成
3. 事後学習

試行結果

成果: 大学体育教員キャリアに対する理解が深まった

課題

- ① 3日間の実習は受け入れ大学の負担が大きく、参加学生も日程調整が難しい。
- ② 他大学の大学院生に授業に参加させることについて、受け入れ大学の制度整備の面で課題が多い。
- ③ 実習が単位化されないと実際の参加希望者は多くない。

受け入れ側のメリット
教員採用の参考になる。

キャリア形成支援

背景

- 自己責任・努力
- 有期雇用 約50%

大体連研修会

- 「教員就職に関するワークショップ」(2013)
- 「大学教員就職ワークショップ」(2014)
- 「大学体育教員のキャリア形成とFD」(2014)
- 「大学教員キャリア開発ワークショップ」(2014)

まとめ

1. 大学教員養成(プレFD)
2. 教養体育インターンシップ
3. キャリア形成支援
(助教から教授、行政職まで)



公益社団法人

全国大学体育連合

Japanese Association of University Physical Education and Sports